

# ブッシュ氏難局打開を懇願 90年構造協議、海部首相に

## 外交文書公開

一九九〇年三月の日米首脳会談で、ブッシュ（父）大統領が難航していた日米構造協議を開拓しようと、海部俊樹首相に「助けてほしい」「日米関係は深刻な転換期にある」と重ねて懇願していたことが二十二日、外交文書で明らかになった。異例の発言を受けた日本は政治決断を迫られ、六月の決着につながった。=関連①面

巨額の対日貿易赤字を抱え、米議会では日本への強硬論が台頭。議会の圧力を受けたブッシュ政権は、自國企業の日本進出のため、市場開放を要求した。

ブッシュ氏は、両国の関係悪化を防ぐと海部氏に会談を呼び掛け、トップ同士で難局を乗り切ろうとした様子が浮き彫りとなつた。

会談は米パームスプリンクスで行われた。ブッシュ氏は三月一日の会談で構造協議に触れ、「せひとも総理の助力を得たい」「日米関係に危険な雰囲気が存在する」と言葉巧みに圧力をかけた。海部氏は「必要な場合自分の政治的意図を行って説得努力も行つ」と応じた。

日米交渉に詳しい同志社大の大矢根聰教授は「日米首脳会談で大統領が『これは見たことがない』と指摘。「政治基盤が弱い海部氏は米国の要請を背景に、日本国内の意見をまとめ上げることができたのだろう」と分析した。

会談後の海部氏に対する外務省幹部の説明資料も公開され「積極的かつかなりドラスチックな対応ができるよう、関係省庁間の早急な調整が必要」と、事態を重く受け止めたことがうかがえる。

構造協議は四月、大規模小売店舗法による出店規制の緩和を柱とした中間報告、六月に公共投資増額を盛り込んだ最終報告をまとめて決着した。